

平成29年度第1回新宿区消防団運営委員会

| | |
|------|---|
| 開催日時 | 平成29年11月6日（月）15時00分から15時50分まで |
| 開催場所 | 新宿区本庁舎5階大会議室 |
| 諮問事項 | 「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、消防団の活動能力を強化するための方策はいかにあるべきか」 |
| 出席者 | 委員長（敬称省略） 吉住 健一（新宿区長） 委員（敬称省略） 森口 つかさ（東京都議会議員）、大山 とも子（東京都議会議員）、秋田 一郎（東京都議会議員）、古城 まさお（東京都議会議員）、森 孝司（新宿区危機管理担当部長）、田中 のりひで（新宿区議会議員）、桑原 羊平（新宿区議会議員）、渡辺 清人（新宿区議会議員）、久保 広介（新宿区議会議員）、のづ ケン（新宿区議会議員）、新藤 博（四谷消防署長）、大熊 亮浩（牛込消防署長）、湯浅 達也（新宿消防署長）、加古 三稚（四谷消防団長）、木本 幸雄（牛込消防団長）、岩田 千明（新宿消防団長） |
| 欠席者 | 委員（敬称省略） 木もと ひろゆき（新宿区議会議員） |
| 傍聴者 | 0名 |
| 配布資料 | 1 次第 2 委員名簿 3 平成29年度第1回新宿区消防団運営委員会資料（答申素案） |
| 審議次第 | 1 開会 2 定足数の確認 3 報告 4 審議 5 閉会 |
| 審議内容 | |
| 事務局 | <p>それでは、定刻となりましたので、これより平成29年度第1回新宿区消防団運営委員会をはじめさせていただきます。</p> <p>委員の皆様には、お忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日、司会進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>まず、はじめに資料の確認をさせていただきますと思います。</p> <p>（配布資料の確認）</p> <p>お手元の資料に過不足等がございませんでしょうか。</p> <p>それでは、以後の議事進行につきましては、新宿区消防団運営委員会委員長であります吉住区長にお願いします。</p> |

| | |
|-----|---|
| | 吉住委員長よりしくお願いします。 |
| 委員長 | <p>新宿区消防団運営委員会委員長の吉住でございます。</p> <p>本日はお忙しいところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>また、日頃から委員の皆様には防災行政をはじめ、区政全般にわたりまして、ご指導、ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。</p> <p>さて、本年度の諮問は「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、消防団の活動能力を強化するための方策はいかにあるべきか」であります。平成28年度第1回消防団運営委員会を踏まえ、今回は2回目の委員会となっております。限られた期間、回数の中でご審議いただきますことをあらかじめご理解いただき、消防団活動を通じて新宿区の安全・安心がさらに向上できる答申として取りまとめできますようにご協力をお願いします。</p> <p>また、東京消防庁からの依頼もあり、新宿区消防団運営委員会は公開とするほか、議事内容についても後日区ホームページ上に公開させていただきますので、あらかじめご了承をお願いします。</p> <p>それでは、お手元の「次第」にしたがい、進めさせていただきますので、委員の皆様には、活発なご検討をお願いいたします。</p> <p>まず始めに、事務局にて定足数の確認をさせていただきます。</p> |
| 事務局 | 定足数の確認でございますが、本日、木もと委員がご都合により欠席されておりますが、定足数18名中17名の出席で委員会は成立しております。 |
| 委員長 | <p>ただいま事務局から定足数の確認をいたしましたとおり、本日の新宿区消防団運営委員会は成立しております。</p> <p>議事に入る前に、今年度、委員の変更がございましたので、ご報告させていただきます。</p> <p>特別区の消防団の設置等に関する条例第5条第1項第1号の委員として、東京都議会議員の森口つかさ委員、東京都議会議員の古城まさお委員、新宿区危機管理担当部長の森孝司委員、続きまして、同項第2号の委員として、新宿区議会議員の田中 のりひで委員、続きまして、同項第3号の委員として、牛込消防署長の大熊 亮浩委員、以上5名の方が、あらたに就任されました。よろしくをお願いいたします。</p> <p>それでは、お手元の「次第」に戻りまして、議事をすすめてまいります。今年度の諮問事項「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、消防団の活動能力を強化するための方策はいかにあるべきか」について、前回の審議を踏まえ、作成いたしました答申書（案）について、検討を行いたいと思います。</p> <p>四谷消防署からご説明をお願いします。</p> |
| 事務局 | 新宿区消防団運営委員会の諮問事項であります「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、消防団の活動能力を強化するための方策はいかにあるべきか」の答申（素案）についてご説明させていただきます。 |

お手元の資料、1 検討の方向性（一部修正）についてご覧ください。前回第 1 回の委員会において審議頂いた諮問事項に対する検討方向については、前回の内容と大きく修正箇所はございませんが、3 ページ（3）各消防団の情勢に対応した検討事項②、前は「テロ対策の強化」と記載させていただきましたが、内容が不明確なため、「テロが発生した場合の安全管理方策について」と内容を修正させていただきました。また、具体的なイメージの枠内で、テロ災害等の安全管理に対する教育とその対応訓練を追加し、下段の星印下線部に「消防隊の指揮本部長の指揮に基づき、安全性を十分に確保した中で活動することを原則とします」とさせていただきます。

それでは、本事項であります新宿区消防団運営委員会答申（素案）、お手元の資料 4 ページをご覧ください。

まず、「はじめに」と記載した内容をご説明させていただきます。東京においても、直下型地震等における大きな被害の発生が予想される中、消防団の力であり、また「地域密着力」「要因動員力」「即時対応力」を兼ね備えている消防団には大きな期待が寄せられているところであります。

東京 2020 大会においても、新宿区にはメイン会場となる新国立競技場を中心に多数の来場者が見込まれ、災害の未然防止と災害発生時の被害を最小限度にとどめるための消防団の活動能力を強化する必要があります。このことから、具体的な方策を検討し、前回の委員会で示させていただきました 3 つの方策について答申（素案）を作成致しました。

まず第 1 としまして、各消防団の情勢に対応した事項であります。新宿区には新国立競技場、マラソン競技場では発着地点となることから、多数の来場者が見込まれ、各種警戒活動が重点的に実施されると予想されます。新宿区内の消防団の応援を受けて、各種警戒活動が予想されることから、消防署、組織委員会を中心として、また各隣接消防団との各種訓練を実施し、情報の共有化と連携体制の構築を図ることが望まれるものであります。また、国内外から多くの人々が観覧に訪れ、テロ災害も危惧されるところであり、消防団員のテロ災害発生時の安全管理に対する基礎知識の教養や初動対応要領訓練を実施する必要があります。さらには猛暑時期での開催で多数の熱中症者発生時の対応訓練と合わせ、団員自らの熱中症対策も必要であります。5 ページに入りまして、このようなことから新宿区各消防団の情勢を踏まえて、各種災害対応能力の向上、また隣接消防団との合同訓練、さらには暑さ対策等をはかることが望まれることとして記載しております。

第 2 として、教育訓練についてとあります。消防団の活動能力向上を目的とした教育訓練については、平素より積極的に取り組んでいるところであります。東京 2020 大会に向けて、さらに災害対応能力の向上を図り、より実践的な教育訓練を実施し、消防団の活動能力を強化することから、次の 6 つの重点項目として掲げております。(1) 消防署隊と連携した警戒や災害対応に関する

教育訓練、(2) 他の消防団との連携や災害対応に関する教育訓練、(3) 応急救護能力の向上を目的とした教育訓練、(4) 迅速な消火活動能力の向上を目的とした教育訓練、(5) 情報通信用装備資器材の取扱いの習熟を目的とした教育訓練、(6) その他、必要な教育訓練であります。この重点項目を推進するために、2 推進事項で各重点項目の具体的な方策として(1)から(8)まで掲載いたしました。まず(1)では、各種災害に対する消防団の活動については、消防隊の指揮本部長の指揮に基づき活動することを原則とし、さらに安全が確保された中で、消防団が保有する装備資器材に応じた活動を行うこととし、災害発生時の安全管理を踏まえた表現を、また署隊と連携した避難誘導や応急救護活動の訓練の必要性を掲げております。(2)は、震災訓練・水防訓練等の機会を捉え、消防団相互の応援を想定した、各種訓練、特に新宿区では区外の消防団の応援を取り入れた訓練の必要性もあげております。(3)は署隊と連携して組織的な活動ができるよう実践的な訓練を実施する必要があることをあげております。(4)は消防団員の救命講習資格取得等の技能向上の促進をあげております。資料1、9 ページをご覧ください。新宿区内各消防団の現行の保有状況を記載しております。消防団員は更なる応急手当指導員等の上位資格を取得し、団員個々の応急救護技術の向上を図り、消防団全体の応急救護能力の底上げを図る必要があることを挙げております。6 ページにお戻りいただきます。(5)(6)については、スタンドパイプや無線機などの消防団の保有資器材の取扱いの習熟と訓練を推進するものとしております。特に、迅速な災害対応と情報伝達に必要な正確かつスムーズな無線交信が行えるよう訓練を積極的に推進することをあげております。(7)は外国語対応可能な消防団員を特殊技能団員として、消防団員の語学教養の指導者や警戒現場での通訳等、効果的に人材を活用することをあげております。3その他では、パラリンピック開催時のためにも、障がいを持つ人への理解とその対応のための必要な教育訓練を推進することをあげさせて頂いております。

続きまして、第3の柱であります装備資器材の充実強化についてであります。東京2020大会の警戒を万全な態勢にするためにも、重点項目として、(1) 警戒等に必要となる資器材の確保、(2) 傷病者への応急救護、(3) 消火用装備の充実、(4) 熱中症予防対策、(5) その他必要な装備資器材、等に即した装備資器材の新たな配置、増強をする必要があることをあげております。

各重点項目に対する推進事項と致しまして、(1)では消防団の無線機の保有状況の中、現有無線機を有事の際にも迅速かつ適切な対応を行うためMCA無線機、携帯無線機を副分団長以下の警戒に従事する団員にも増強配備することが望まれます。資料2、10 ページをご覧ください。4種類の無線機を掲載させて頂いております。各警戒の用途について使い分けが可能な無線機であります。①、②については、先程、副分団長以下にも増設するというご説明させて頂いております。7 ページにお戻りください。無線機のほかに、警戒時の情報収集ツールとして警戒位置情報が把握できるタブレットやスマートフォンの配置も有効なツ

ールとしてあげております。

(2)は、現在消防団に配置されていないAEDや感染防止のための感染防護衣の配置、また応急救護バッグについては、多数傷病者の対応として増加配置し、適切かつ迅速な応急救護活動を図る必要があります。資料3、11ページをご覧ください。主な応急救護資器材を掲載しております。特に熱中症対策として、冷却剤の配置は強く望まれるところであります。希望配置資器材では救急隊が使っている感染防護衣、AEDを記載しております。7ページにお戻りください。

(3)ではスタンドパイプの増強をあげております。先程、教育訓練でも触れさせていただきましたスタンドパイプはご承知の通り消火栓から直接ホースを伸ばし消火できることから、各現地警戒本部等に配置することによって即応体制が図られ、消火用装備として有効活動ができる資器材であります。資料4にスタンドパイプの諸元性能を記載させて頂いております。

(4)では、救急用コミュニケーション支援ボードの配置をあげております。日本語を話せない傷病者に対し、初期対応に活用できる資器材であります。資料5、13、14ページをご覧ください。現在、東京消防庁救急隊が使用しているコミュニケーション支援ボードであります。英語、韓国語、中国語、ポルトガル語、スペイン語に対応しております。7ページお戻りください。

(5)は東京2020大会が猛暑時に開催されることから、消防団員の熱中症予防対策が極めて重要であります。体温の上昇を防ぐためにも、保冷剤を装着できるベスト等の配置が必要であります。これについては資料6、15ページに写真で記載させて頂いております。東京消防庁で使用している災害時熱中症対策を図るベストと、また下にはドライクールベストで市販されているものを掲載させて頂いております。7ページにお戻りください。

(6)については、消防団が現有している個人装備品及び資器材一覧表を資料7・8でご説明させて頂いております。資料7、16ページは特別区消防団の使用装備の中から、安全装備資器材として6つの資器材を掲載しております。資料8については、現有の消防団使用資器材を掲載させて頂いております。ご確認をお願い致します。

最後に、答申書案の「おわりに」ということで、東京2020大会は、夏場の時期の開催となり、開催期間中には国内外からの多くの人と物の流れが予想されます。多様な災害が危惧される中、災害の未然防止と災害発生時における被害を最小限度にとどめるため、消防団に寄せられる期待は非常に大きいものがあります。これまでも、積極的に実戦的な発災型訓練や多数のけが人が発生した場合の初動対応訓練を実施してきたところでありますが、さらに教育訓練と資器材の充実強化が必要不可欠であります。その結果を受けて、東京2020大会の万全を期し警戒活動を行い、大会の成功に寄与することにより、平素の災害活動はもちろん、大規模災害等に対しても、地域に密着した防災リーダーとしての活動能力が強化されるものであります。

| | |
|-----|--|
| | <p>以上が、事務局で作成しました答申（素案）の内容でございます。内容についてご審議等よろしくお願い致します</p> |
| 委員長 | <p>ありがとうございました。ただ今説明がありましたが、第1回で議論しておりますので、第2回ということで途中から報告を受けたという委員の方もいらっしゃるかと思いますが、お気づきの点がございましたら、ご意見頂ければと思います。ただいまの答申（案）につきまして、ご意見、ご質問がございましたらお願い致します。</p> |
| 委員 | <p>質問を1点させて頂ければと思います。新宿区の消防団の活動という話だと思えますが、東京都全体でのオリンピックに対する取組み、どういった組織図になっているのか教えて頂ければと思います。</p> |
| 事務局 | <p>東京2020大会についての警戒等の組織体制図については、現在東京消防庁が内容について具体的に検討している段階で、まだ23区の消防団がどういった形で警戒にあたるかという具体的な案については示されておられません。現在、東京2020大会で警戒される内容について、分かる範囲で現在の答申にて内容を進めているところでございます。</p> |
| 委員長 | <p>まだ全体像としては示されていませんが、私どもで何ができるかということで現在ご検討頂いている段階かと思えます。</p> |
| 委員 | <p>オリンピック・パラリンピックの警備ということで大変なことだと思います。夏の本当に暑い中ですので、くれぐれも健康管理を、そういう点では冷却のものなどが必要になってくるのではないかと考えております。3ページのテロ対策のところ、「消防隊の指揮本部長の指揮に基づき、安全性を十分に確保した中で」ということを書き加えて頂いたということは重要なことだと思っております。それと同時に、テロ対策の新たな装備や資器材の配備増強ということが、特別区の各消防団運営協議会で協議されていて、例えばウェアラブルカメラをヘルメットに付けて情報を集めるというようなことを協議していたところがあります。消防団員が装着しテロ対策の警備に動員することになったら、極めて危険なことだと思っております。そのような新たな装備は考えていないということでもいいわけですね。</p> |
| 事務局 | <p>委員のおっしゃる通り、消防団については現有の資器材を活用して、安全性を確保された中での活動になりますので、テロ災害の警戒にあたる資器材については、配付増強するという考えはありません。</p> |
| 委員 | <p>そもそもテロは災害ではなくて犯罪ですので、消防団員を危険に晒すようなことは絶対にあってはならないということを改めてお願いをしたいと思えます。それから、資料3で感染防止衣がありますが、どのような範囲の感染症に対応するものなのですか。</p> |
| 委員 | <p>感染防止衣についてご説明させていただきます。新型インフルエンザ対策で、東京消防庁が導入した経緯がございます。おそらく医師用オペ着と同等のかなりのバリア性と、かつ通気性にも富んでおり、消防団を感染から守るということに対</p> |

| | |
|-----|--|
| | しては有効であると考えられます。 |
| 委員 | 感染防止衣というのは、本文の中には出てこないということでしょうか。 |
| 事務局 | 7ページの(2)「これらの資器材を配置する」と資料3の中で説明させて頂いております。 |
| 委員 | 感染症も含めてくれぐれも消防団の身を守る、安全を守ることを最優先にしていきたいと思います。 |
| 委員 | 他の消防団との連携や災害対応に関する教育訓練についてですが、ご存じのとおり新国立競技場は新宿区にありますが、実質的には港区や渋谷区になります。港区や渋谷区の該当消防団との連携も当然必要ですが、その予定はどのようになっているのかというのが1点と、2点目がコミュニケーション支援ボードについて、これは大変結構なことだと思いますが、例えば「気を失う」というところに「I」と書いてありますが、気を失っている人が、私は気を失っているとは言わないので、外国人が「私じゃない」と言うなど無駄な時間を費やしてしまうのではないかと、あるいは体のどこですかと言う場合、お腹を指しても胃なのか腎臓なのか、あるいは肝臓なのかによって全然違うと思うので、大変細かいことを言って申し訳ないですが、警察も消防も初期の対応が肝心だと思いますので、具体的に体の部位を示した大きなボード等を別途用意して頂いた方が、より対応を誤らないのかなという気が致します。ご検討頂ければと思います。 |
| 委員長 | 他区の消防団との連携・協力体制についての状況や、コミュニケーションボードの言葉等の精度の向上についてお願い致します。 |
| 事務局 | 最初の質問であります他区の消防団との連携については、まだ東京消防庁で具体的には警戒態勢が示されておりませんが、当然として委員のおっしゃる通り、渋谷区、港区、新宿区、またそれ以外の消防団の応援、または地域との連携は、とても大切になりますので、そういう形で示させて頂ければと思います。 またコミュニケーション支援ボードにつきましては、現在東京消防庁の救急隊が使用しているものであり、消防団用に新たにもう少し簡素的なもの等も踏まえて、答申の中で盛り入れられるか検討していきたいと思っております。 |
| 委員 | 消防団の応援を受ける体制、応援に行く体制につきましては、今後東京消防庁としても、そのような想定をした訓練を行っていくという方向性になっているところがございます。すでに震災訓練の中では、杉並区と調布市との合同訓練が行われており、当然のことながら先生のおっしゃった通り、新国立競技場を抱えている新宿区としては地域の消防団との連携は不可欠だと思いますので、我々としてもそのようなことを踏まえ庁の方針に基づいて行っていきたいと思っております。 またコミュニケーション支援ボードですが、東京消防庁が保険会社さんから提供を受けたもので、内容的には誤解を受けるようなものもありますので、消防団用に使用するためには、精度をもう一度確認していきたいと思っております。 |
| 委員長 | 言語に関しては、私どももゴミに関することで作ったことがありますが、大使館 |

| | |
|-----|---|
| | <p>に目を通してもらったところ、地域で独特な言い回しがあるという指摘を受け、全国的な言語に直してもらったという事例もありますので、色々のご配慮頂ければと思います。</p> |
| 委員 | <p>文言的に4ページの「オリンピック応援」というのは「オリンピック・パラリンピック応援」と二つ並べて頂いた方が正確ではないかと思えます。</p> <p>長期に渡って消防団員がこれらに関わるということを想定しますと、実際仕事を持ちながら参加をするということを考えた場合、相当な負担がかかると思えます。現実的にはやはり消防団員の勤め先や仕事関係の理解がないと、専業で消防団員をしているわけではありませんから、日常的なところをみれば相当なご負担があるという部分が、なかなかこの諮問から読み取れないので、消防団の人たちが活動しやすい環境をどう作っていくのかをもう少し加えていただきたいと思えます。あるいは、冷却の装備や消防団員の健康チェック等を行って、万全の態勢をするという点はもう少し考えて頂いた方が良いのかなと思えます。</p> |
| 事務局 | <p>消防団の皆様は仕事をしながらの活動となりますので、その辺りも踏まえて警戒態勢についても万全を期するように答申案についても盛り込んでいくよう検討していきたいと思えます。</p> |
| 委員 | <p>答申案について修正はありません。</p> <p>検討していただきたい事項があり、6ページ(5)「スタンドパイプの習熟訓練を推進する必要」という文言があります。おそらく区内の分団にはスタンドパイプは配付されていると思えます。震災時ではないので、スタンドパイプは非常に有効だと思えますが、訓練を行う際に許可を取るのが非常に大変で、公園と道路を使ってスタンドパイプを訓練する場合には、公園の許可証を新宿区に、道路の使用許可を警察に、水道の使用を消防署経由で水道局に提出する必要があります。これを改善していかないと、実際に訓練自体前に進んでいくことが出来ないのではないかと思っています。今すぐ返事を頂くことではないですが、訓練を進めるためにも改善できる部分は改善していく必要があると思えますので、警察との連携等、前に進めて頂ければと思います。ご返答は結構です。</p> |
| 委員 | <p>主な応急救護資器材など大変素晴らしいと思えますが、団員の方も段ボール二つ分とか既に資器材を持っている方がほとんどですので、さらに増加すると置く場所の問題にもなってきますので、その辺りのことも考えて頂けると大変有難いと思えます。</p> |
| 委員 | <p>地元の消防署、消防団の皆様方から要望していただきたいのですが、出来るだけ早く地元の消防団として新国立競技場及びその周辺で訓練を行うという要望を是非していただきたいです。というのは、現場が分かっていないと、案内をする際にも案内出来ないわけです。実は、皆様方ご存知の明治公園の形状も、今回だいぶ変わります。当初の案とも変わってしまっています。どこが出口でどこが公園なのか、そういうことも含めて今までと勝手が違い、新しくなったら全く分からないと思うので、早々に新国立競技場が出来次第、周辺や中で訓練をするという</p> |

| | |
|-----|---|
| | 要望を、地元の消防団から出して頂くと、私どもとしては有難いなと思います。 |
| 事務局 | 各委員の皆様の意見を受けて、対応可能なものについては進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。 |
| 委員 | 消防団の方は、ここに書いてあることは是非やりたい、やって頂けると思います。団長さんから分団長さんをお願いして、さらに各団員をお願いし、みんなの志気を上げていく中で、オリンピックにどういう形で参加したのかというのは絶対に必要になってくると思っておりますので、ご褒美というわけではないですが、何かそういったものがありましたら、要望として受け取っていただきたいと思っております。 |
| 委員長 | 前の東京オリンピックの時には、確か色々お手伝いした方には職種にもよりますが、ブレザー等、事例があったようです。 |
| 委員 | 前回の合同点検時、消防団員から話を伺った際に、暑さ対策、熱中症対策について、今回素案の中でもご提案を頂いている冷却ベストですが、おそらく東京消防庁の署隊にすでに配備されているものかもしれませんが、実際に体感としてどれくらい効果があるのか、それから資料15ページにあるドライクールベストは実際に配備され使用しているのかお伺いしたい。 |
| 事務局 | 冷却ベストについては、かなりの効果があると思われまます。具体的に数値はありませんが、災害時には消防隊が常に冷却ベストを着用しその上に防火衣を着て出勤、活動しておりますので、効果が高いものだと思っております。ドライクールベストについては、市販のものを参考までに掲載しましたので、特にこれを使用しているというものではありません。 |
| 委員 | 補足させていただきます。東京消防庁には技術安全所に、熱体験訓練室があり、これは科学的な根拠に基づいて、冷却ベストの研究をしているところでございます。その場で消防活動に匹敵する活動をしていても防護衣の下の体温が上昇しないというものですので、効果についてはしっかり検証した資器材を消防団に提供していきたいと思っております。 |
| 委員 | 色々な資器材の準備して頂いて、今まで私たちが消防団を始めた頃に比べると、今の消防団は色々な装備を頂いております。特に情報伝達の手段として無線機がよく使われていますが、MCA無線は非常に性能が良く色々な扱い方が出来るようになっております。ゆえに使いにくいということがあります。使い方を覚えてしまえば、広範囲な、例えば牛込と四谷、新宿、あるいは多方面の消防団との連携、東京全体の連携が取れるような無線機となっています。ただ、私ども通常の使用法としては、水害対策などの場合には、自己の消防団の中だけで使用しています。ですから、自己の消防団で使用している分には、使い勝手は悪いですが、まだまだ使える余地があります。逆に言えば、他の消防団や地域との連携となると、普段あまり訓練が出来ておりません。ですから、こうした大きな競技や災害等を予想しますと、そういったソフト面での運用訓練もこれから必要ではないかと思っております。行政の方々の応援で、消防団も装備を整えていただきました。これ |

| | |
|-----|---|
| | <p>をしっかり使えるような消防団としての態勢を私たちは考えていかなければいけない、そのように考えております。</p> |
| 委員長 | <p>ありがとうございました。</p> <p>ただいまいただきましたご意見やご質問に基づいて、事務局の方で答申を最終的に作成する手順について、簡単にご報告いただきましてこの議論は終えたいと思います。</p> |
| 事務局 | <p>吉住委員長ありがとうございました。</p> <p>本委員会の議事録については、作成後、委員の皆さまに送付いたしますので、ご確認をお願いします。また、概ね1か月を目途に、区ホームページに掲載させていただきます。</p> <p>なお、次回の委員会は平成30年1月又は3月に実施を予定しております。日時が決まり次第、事務局から開催のご案内をさせていただきます。お忙しい時期かと存じますが、ご協力をお願いいたします。</p> <p>それでは、以上をもちまして平成29年度第1回新宿区消防団運営委員会を閉会致します。本日は誠に有難うございました。</p> |